



能登上布

能登上布

歴史と特色

崇神天皇の皇女が能登の鹿西町(現・中能登町)に滞した折、真麻の上布を作ることを土地の人に伝えたのが始まりと言われている。

元禄年間には、鹿島郡・羽咋郡の女子の主要な副業として織られ、近江商人によって販路が開かれていた。

明治以降も独特の櫛押し捺染や板ヅ、ロール染、型紙捺染と種々の方法により、縞柄や横惣、縮などを生産し飛躍的に伸びた。特に、織幅に十文字縞を120個から140個織り出す組み合わせの正確さにより上布の最高級品とされている。

しかし、生活様式の変化で需要が落ち込んでいるが、後継者育成などに努力が続けられている。昭和35年石川県無形文化財に指定された。

历史和特色

在江户时代，由鹿岛郡和羽咋郡的女子纺织出能登上布，并出售到西日本的很多地方。明治时期以后，因开发了各种各样的技法和式样，生产得到了飞跃性的发展。织布的横幅由120个到140个十字形飞白花纹交织而成，其准确无误的交叉搭配被评为是最高级的上布。1960年，被指定为石川县的无形文化财富。

▶ 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	羽咋市(羽咋市)、中能登町(中能登町)
主な製品名(主要产品名)	亀甲縞、十字紋縞(龟甲飞白花纹、十字形飞白花纹)
主な生産者(主要生产者)	山崎麻織物工房(山崎麻織物工房) 〒929-1571 羽咋市下曾祢町ヲ84(羽咋市下曾祢町ヲ84) TEL (0767)26-0240 能登上布会館(能登上布会館) 〒929-1604 鹿島郡中能登町能登部下134部1番地(鹿島郡中能登町能登部下134部1番地) TEL (0767)72-2233



能登烟花

能登烟花

歴史と特色

武器として製造されていた火薬が、江戸中期より娯楽に使用されるようになり、烟花が生まれたと言われ、金沢においても当時より製造されていたものと思われる。

金沢では、明治以後大正末まで製造されていた。能登地方においては、昭和初期頃まで祭礼に使用するため各地で烟花が製造されていたが、押水町に専業として製造するものが現れ、現在に受け継がれている。

豪華な打ち上げ烟花を中心として製造され、県内はもとより主に関西、中部地区で打ち上げられている。

历史和特色

作为武器制造出的火药在江户时代被用于制造烟花。金泽在明治至大正末期生产制造烟花。能登地区在昭和初期以前，各地都在制造烟花。现在，能登的押水町制造豪华灿烂的高空礼花。

▶ 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	宝達志水町(宝达志水町)
主な製品名(主要产品名)	打ち上げ烟花、スターメイン、仕掛け烟花(高空礼花、连续速射烟花、花样烟花)
主な生産者(主要生产者)	能登煙火株(能登烟花(株)) 〒929-1313 羽咋郡宝達志水町字東間ヲ3-2(羽咋郡宝达志水町字东间ヲ3-2) TEL (0767)28-2514